

研修資料 4 ケースに学ぶ

活用にあたって

学校や子供を取り巻く環境は日々変化しており、それに伴っていじめの態様も変化しています。先のページでは、いじめの対応方法の基本をお示ししてありますが、適切な解決方法の一つではなく、そのケースに応じた対応をとることが重要です。

ここでは、下図の **研修の流れとポイント** を参考にし、各ケースの「いじめの概要」を読み、「話し合う視点」の問いについて考え、いじめの解消と未然防止につながるよう話し合しましょう。

研修の流れとポイント

児童生徒理解
・
アセスメント
(見立て)

「いじめの概要」を読み、「子供に何があったのか」、「どんな気持ちでいるか」などの**児童生徒理解**を基盤として考えます。要因や背景を考え、それらの情報を組み立てます。ここでは、いじめの概要を読んで分かることよりも、分かっていないことや、見えていないことを探ることが重要です。集まった情報を基にいじめの概要の**アセスメント (見立て)**を行い、対応方針を話し合います。

プランニング
(手立て)

見立てに基づき、**プランニング (手立て)**となる具体的な対応を話し合います。教職員のそれぞれの立場による役割分担を考えるとともに、他に援助者や支援機関にどう協力してもらいたいかを話し合います。

未然防止策

今後、同様のいじめが起これないように**未然防止策**を話し合います。

話し合いのポイントについて

児童生徒理解・アセスメント（見立て）

- 1 このいじめの要因や背景について、多様な側面から考え話し合しましょう。

（被害者、加害者、周囲の人間関係、これまでの関係、最近の様子、当該児童生徒の性格、気になるエピソードなど、多方面に考えてみる。）

- 2 今何に困っていて、どのような困難な状況におかれているか考え、話し合しましょう。

（被害者、加害者、保護者、周囲の子供など、それぞれがどのような心情でいるか。被害者や加害者の行動や言動にどんな意味があるのかなど。）

プランニング（手立て）

- 3 このいじめの解消に向け、学校はどんな対応をとればよいか。また、誰にどのような働きかけをしたらよいか考え、話し合しましょう。

（支援資源には何があるか、教員の役割分担をどのようにするか、その他援助者や支援機関にどう支援をしてもらうかなど。）

未然防止策

- 4 各ケースの事案を踏まえ、今後同様のいじめを未然に防ぐためには、何をしたらよいか考え、話し合しましょう。

（授業、学級活動等クラスでできること、学校全体でできること、学校と地域が連携してできること等。）

ケース1 「対応しないでほしい」という要望があったいじめ

○いじめの概要

被害児童：A（小6男）

加害児童：B、C、D（小6男）

Aは、4月から同級生のB、C、Dから学校内で繰り返し足を蹴られたり背中を叩かれたりするいじめを受けていた。7月の個人懇談会でAの母親が担任に話したことにより発覚した。

担任は「すぐに対応したい」と母親に伝えたが、母親は「本人が『先生に言ってほしくない。自分の力で仲よくなりしたい』と強く言っているので、対応はしないでほしい」と担任に伝えた。

[参考情報]

- 5年時のクラス替えで、AとBは同じクラスになった。
- B、C、Dは以前から仲がよかった。
- 5年生の3学期にAとBが体育の授業で同じチームになったときに、Aがうまくプレーできなかったことに、Bが腹を立てたことがいじめのきっかけとなった。
- Aは5月頃に、B、C、Dに学校で蹴られたり叩かれたりしていることを母親に話した。
- 6年生は2クラス編成で、Aの担任は20歳代である。
- もう一つのクラスを担当する教諭が40歳代で学年主任である。

話し合う視点

児童生徒理解・アセスメント（見立て）

- 1 このいじめの要因や背景について、考えられることを話し合しましょう。

体育のトラブル以外にも、何かあったのでは？



- 2 被害者、加害者、保護者、周囲の子供が、今何に困っていて、どうなりたいと思っているのか話し合しましょう。

Aは先生に対応してもらってどうなっているのだろうか？



プランニング（手立て）

- 3 このいじめの解消に向け、学校は誰に、どんな対応をとればよいか話し合しましょう。

「対応はしないでほしい」という思いにどのように答えたらよいだろうか？



未然防止策

- 4 このいじめ事案を踏まえ、学校として今後同様のいじめを未然に防ぐためには、何をしたらよいか話し合しましょう。

子供、保護者に「対応してもらいたいな」と信頼してもらおうことが大切です。



ケース2 いじめ被害を相談できない生徒への対応

○いじめの概要

被害生徒：A（中2女）

加害生徒：B（中2女）、C（中2女）

2学期の終わり頃から、AはBから悪口を言われたり、中傷する手紙を回されたりした。またAは、BとCから机に落書きもされた。Aは、BとCから仲間はずれにされているのではないかと考えるようになった。

Aは、嫌がらせを受けていることや無視されていることについて、誰にも相談せずにした。

そのうち、Aは休み時間や特別教室の移動等はいつも一人で行動するようになった。当事者以外のクラスメイトのほとんどが、Aが一人で行動していることについて、気付いているが、見て見ぬふりをしている状況であった。

ある日、担任が提出物を集めている際にAの手首にカッターのような物で何度か切った傷跡があることに気付き、呼び出して面談を行い、本人に事情を聞いた。

しかし、Aは、「傷はちょっといたずらしただけ」「困っていることは何もない」といってそれ以上何も話さなかった。

[参考情報]

- 同校は3クラス編成で毎年クラス替えを実施していた。
- Aは、Bと1年時から同じクラスであった。Cは、クラス替えによって2年時から同クラスになった。
- Cは、多くのクラスメイトから推薦されクラス委員となった。Cの周りには、いつも男女問わず5、6人が集まっていた。Cは、1年の1学期後半に他市から転校してきた。
- 1年時、AとBとは仲良しグループ内にいた。
- Aの保護者は、Bの保護者とクラス懇談会で挨拶するなど、顔見知りであった。Cの保護者とは、会話をしたことがなかった。
- 担任(男性)は、本年度クラス担任となった(昨年は他学年の担任)。
- スクールカウンセラー(女性)は、3年前から同学校に配置され、毎週水曜日に同校で勤務している。
- 養護教諭(女性)は、同校勤務1年目である。

話し合う視点

児童生徒理解・アセスメント（見立て）

- 1 このいじめの要因や背景について、考えられることを話し合しましょう。

A、B、Cの関係性に着目！
1年時と2年時の変化は？



- 2 被害者、加害者が、今何に困っていて、どのような困難な状況におかれているのか話し合しましょう。

Aは、なぜ担任に何も話さなかったのだろう？



プランニング（手立て）

- 3 このいじめの解消に向け、学校はどんな対応をとればよいか話し合しましょう。

人的資源：だれに、どんな協力をしてもらおうのかな？



未然防止策

- 4 このいじめ事案を踏まえ、クラスとして今後同様のいじめを未然に防ぐためには、何をしたらよいか話し合しましょう。

それぞれの立場で考えてみましょう。



ケース3 ネット上の中傷によるいじめ

○いじめの概要

被害生徒：A（高1女）

加害生徒：B（高1女）、被害生徒のクラスメイト複数

2月に、Aから担任へ、同じ学級のBのツイッターに、自分の悪口が書かれているとの相談があった。

担任がAから事情を聞くと、Aの実名は書かれてはいないが、誹謗・中傷の相手がA本人であることが特定できる文面で、「いつもいい子ぶって、うざい」「学校へ来るな」といった言葉が書かれているとのことであった。Aは、その内容が自分のことを指しているのではないかとBに直接尋ねたが、Bは認めなかったという。

Aは、実際に自分の悪口が書き込まれているツイートをスクリーンショットで保存して、学校へ持ってきていた。そして、担任もそれを確認した。

最近、Bのツイートに同調し、同じような内容の書き込みをするクラスメイトが増えてきたため、担任に相談してきたとのことであった。

[参考情報]

- Aは、正義感が強く、友人にも間違っただことは毅然と注意するような性格である。
- Aは、活発で明るく、行事等でもクラスメイトを引っ張り、担任からも頼りにされている存在である。
- Bは、自ら積極的に友達に関わることはやや苦手であるが、Aのようにみんなの中心になって活動したいという気持ちを持っている。

話し合う視点

児童生徒理解・アセスメント（見立て）

- 1 このいじめの要因や背景について、考えられることを話し合しましょう。

この学級はどのような雰囲気
の学級なのだろうか？



- 2 被害者、加害者が、今何に困っていて、どのような困難な状況におかれているか話し合しましょう。

Aのことをツイートしたと認めないB
も困っていることはないだろうか？



プランニング（手立て）

- 3 このいじめの解消に向け、学校はどんな対応をすればよいか、また、拡散した書き込みを削除するにはどうすればよいか、話し合しましょう。

ネットに上げられた情報
は拡散が速いため、
迅速かつ丁寧な対応が
求められます。



未然防止策

- 4 このいじめ事案を踏まえ、学校として今後ネットいじめを未然に防ぐためには、何をしたらよいか話し合しましょう。

ネットいじめの特徴やネット
いじめが起こる要因から考え
てみましょう。



ケース4 スポーツ少年団におけるいじめ

○いじめの概要

被害児童：A（小5男）

加害児童：B（小6男）、C（小6男）

昨日、Aが学校を欠席した。担任は、Aの母から欠席連絡の際、「うちの子がスポーツ少年団のみんなから無視されている。だから、もう学校にも練習にも行きたくないと言っている。」と相談された。母がAから聞き出した話によると、1カ月前にあった練習試合の昼食時に、Aは蓋が開いている水筒を誤って倒してしまい、BとCのシューズを汚してしまったことがあった。その次の日から、BとCはAを無視しはじめ、Aは他の団員からも徐々に話しかけてもらえなくなった。また、学校では先週、Aと同じスポーツ少年団で同じクラスのDに話しかけた時、「お前としゃべったら、オレも先輩から無視される。だから、ごめん、もうAと仲よくできない」と言われた。

[参考情報]

- Aは、昨日まで毎日学校へ休まずに登校していた。しかし、母は、近頃ぼんやりとしていることが多いことや、学校やスポーツ少年団のことを聞いても話したがらない様子が見られることから、とても心配していた。母はAに、「最近、何かあったの?」と聞いても話をわざと逸らしていた。しかし、昨日もう一度問いただすと、みんなから無視されていることやBとCのシューズを汚してしまったことを泣きながら話した。
- BとCは、このスポーツ少年団内でも、チームのけん引役となるムードメーカーである。
- 団員は全員男子で、4～6年生である。団員数は15名（各学年5名）である。また、団員全てが同じ小学校に在籍している。
- 他の団員は、AがB、Cに無視されていることについて、親や指導者、教員等の大人に誰も話していなかった。

話し合う視点

児童生徒理解・アセスメント（見立て）

- 1 このいじめの要因や背景ついて、考えられることを話し合しましょう。

シューズを汚されたこと以外に、何かあったのでは？



- 2 被害者、加害者、保護者、団員が、今何に困っていて、どのような困難な状況におかれているか話し合しましょう。

このスポーツ少年団の他の団員は、なぜ周囲の大人にAのことを話していないのだろうか？



プランニング（手立て）

- 3 このいじめの解消に向け、学校はどんな対応をとればよいか話し合しましょう。

スポーツ少年団とどのような連携を図れるだろうか？



未然防止策

- 4 このいじめ事案を踏まえ、学校として今後同様のいじめを未然に防ぐためには、何をしたらよいか話し合しましょう。

学校と地域との連携で、何かできることは？

